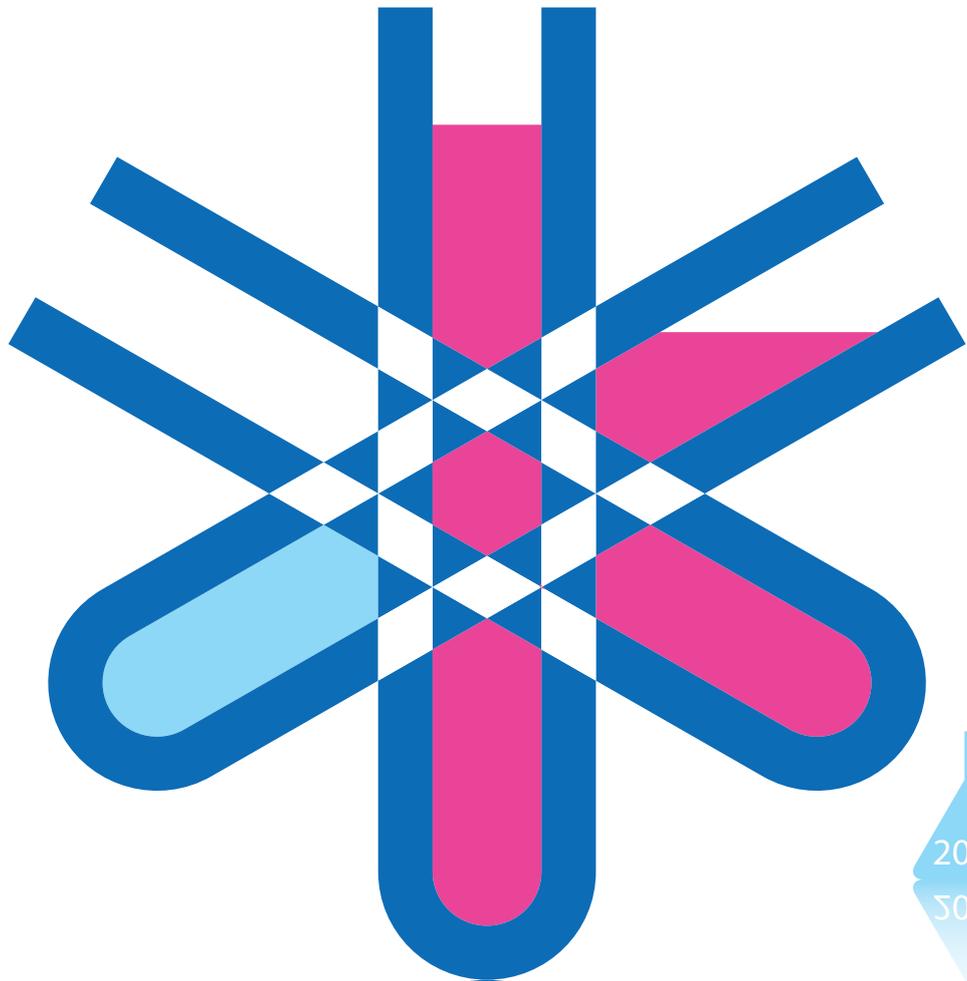


横查情報月報



2019
5019
2月
5日

横浜市衛生研究所

平成31年2月号 目次

【トピックス】

年末食品収去検査結果(平成30年度)	1
魚介類中のPCB検査結果(平成30年度)	3

【感染症発生動向調査】

横浜市感染症発生動向調査報告 1月	4
-------------------------	---

【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報	8
---------------------	---

年末食品収去検査結果(平成30年度)

年末食品等一斉点検事業は厚生労働省から出された「平成30年度食品、添加物等の年末一斉取締りの実施について」の通知に基づき、食品流通量が増加する年末及び食中毒患者が最も発生する冬季における食中毒の防止を図るとともに、積極的に食品衛生の向上を図る見地から全国一斉に実施されました。

本市においては平成30年11月1日から12月28日までを年末取締り期間と定め、一斉点検を行いました。そのうち、健康福祉局食品専門監視班及び各区福祉保健センターの収去した検体について、当所が行った食品添加物検査及び細菌検査の結果について報告します。

1 食品添加物検査

搬入された137検体(輸入品84検体、国産品53検体)の食品について、菓子類、肉卵類及びその加工品などを重点的に、保存料、着色料、酸化防止剤など2,435項目の検査を実施しました(表1)。

その結果、いずれも食品衛生法及び食品表示法に適合していました。

表1 食品添加物検査結果

平成30年11～12月

食品区分	検体数	違反検体数	項目数	検査項目					
				保存料	着色料	甘味料	酸化防止剤	漂白剤	発色剤
魚介類加工品	8	0	80	18	51	3	-	6	2
肉卵類及びその加工品	27	0	353	81	238	4	3	-	27
乳製品	2	0	23	6	17	-	-	-	-
穀類及びその加工品	1	0	23	-	17	3	3	-	-
野菜類・果物及びその加工品	15	0	261	46	187	20	6	2	-
菓子類	44	0	819	66	595	78	79	1	-
清涼飲料水	11	0	299	99	170	30	-	-	-
酒精飲料	8	0	137	24	102	3	8	-	-
かん詰・びん詰食品	8	0	141	27	90	7	14	3	-
その他の食品	13	0	299	48	214	22	15	-	-
合 計	137	0	2,435	415	1,681	170	128	12	29

【 理化学検査研究課 食品添加物担当 】

2 細菌検査

細菌検査の内訳は、食肉製品・洋生菓子・そうざいなど78検体204項目でした(表2)。

検査の結果、規格基準^{*1}違反はなく、洋生菓子と非加熱そうざいで衛生規範^{*2}不適が4検体ありました。

^{*1} 規格基準とは、食品及び添加物について食品衛生法第11条により基準、規格を定めたものことです。

^{*2} 衛生規範とは、弁当・そうざい、漬物、洋生菓子及び生めん類について定められた衛生的な取り扱い等の指針のことです。

表2 細菌検査結果

平成30年11～12月

食品区分	検査 検体数	検査 項目数	違反・不適 検体数	違反・不適理由
魚介類加工品				
むしだこ	2	2	0	
ゆでがに	3	9	0	
肉卵類及びその加工品				
非加熱食肉製品(生ハム)	9	36	0	
包装後加熱食肉製品(ボロニアソーセージ)	1	2	0	
加熱後包装食肉製品(ハム、ベーコン等)	12	36	0	
肉卵類及びその加工品	4	8	0	
乳製品				
ナチュラルチーズ	2	2	0	
穀類及びその加工品				
生めん	2	6	0	
野菜類・果物及びその加工品				
漬物類	3	3	0	
菓子類				
洋生菓子	15	45	2	大腸菌群陽性
清涼飲料水				
清涼飲料水	4	4	0	
その他の食品				
加熱そうざい	14	42	0	
非加熱そうざい(サラダ等)	7	9	2	細菌数超過 ^{*3}
合 計	78	204	4	

^{*3} 基準 100万/g以下

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

魚介類中のPCB検査結果(平成30年度)

平成30年6月と12月に中央卸売市場本場で収去した市内に流通する魚介類9種10検体について、PCBの検査を行いました。その結果、1検体からPCBを検出しました(表)。しかし、検出された値は暫定的規制値以下でした。

表 PCBの検査結果

単位:ppm

食品の種類	検体数	検出件数	結果	暫定的規制値	
遠洋沖合魚介類	トビウオ	1	0	不検出	0.5
	マイワシ	2	0	不検出	
	マサバ	1	0	不検出	
内海内湾魚介類	アカカマス	1	1	0.05	3
	サワラ	1	0	不検出	
	ホウボウ	1	0	不検出	
	マアジ	1	0	不検出	
	マコガレイ	1	0	不検出	
	マツカワガレイ	1	0	不検出	
計	10	1			

(検出限界:0.01ppm)

《10年間のPCB検査結果まとめ》

過去10年間に行ったPCB検査(市内に流通する魚介類47種140検体)の結果を図に示しました。

その結果、9種20検体からPCBが検出され、最も高く検出された検体は平成21年度に検査したブリ(ハマチ)の0.08ppmでした。全ての検体で暫定的規制値を大きく下回る結果でした。

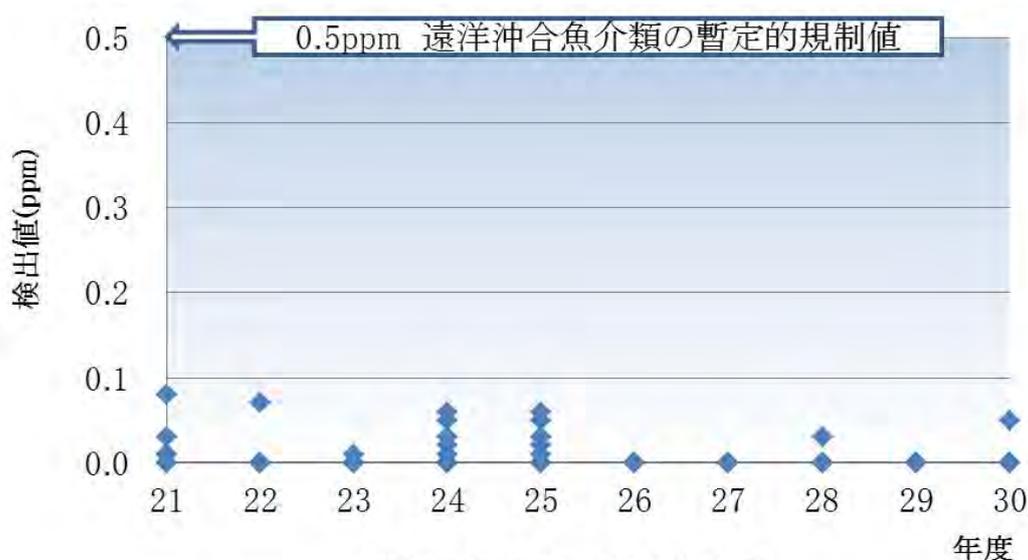


図 10年間のPCB検査結果

【 理化学検査研究課 微量汚染物担当 】

横浜市感染症発生動向調査報告 1月

《今月のトピックス》

- インフルエンザ流行警報が発令されています。
- 風しんの報告数が多い状態が続いています。

◇ 全数把握の対象

〈1月期に報告された全数把握疾患〉

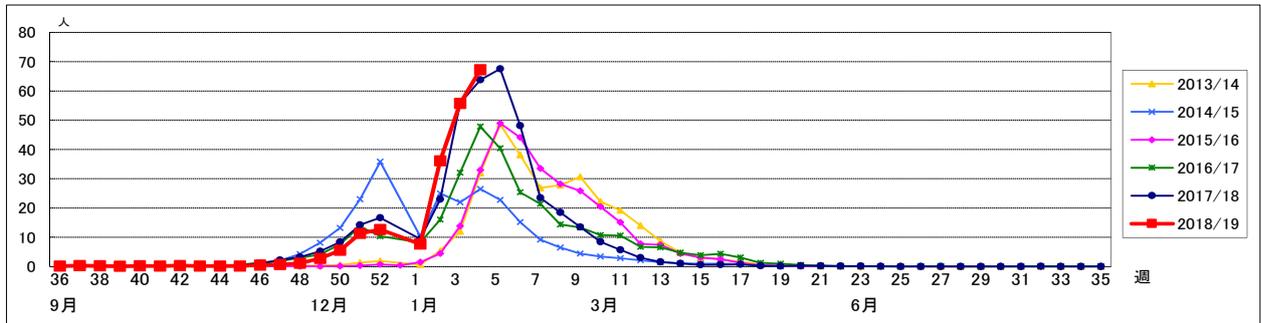
腸管出血性大腸菌感染症	1件	急性脳炎	5件
E型肝炎	1件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件
A型肝炎	2件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2件
デング熱	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	14件
マラリア	1件	水痘(入院例に限る)	1件
レジオネラ症	5件	梅毒	5件
アメーバ赤痢	3件	百日咳	22件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	5件	風しん	31件

- 腸管出血性大腸菌感染症:インドでの経口感染と推定されるO111の報告が1件ありました。
- E型肝炎:経口感染と推定される報告が1件ありました。
- A型肝炎:インドでの経口感染と推定される報告が1件、同性間の性的接触による報告が1件ありました。
- デング熱:フィリピンでの蚊からの感染と推定される報告が1件ありました。
- マラリア:トーゴでの蚊からの感染と推定される熱帯熱マラリアの報告が1件ありました。
- レジオネラ症:肺炎型の報告が5件あり、感染経路等不明です。
- アメーバ赤痢:腸管アメーバ症の報告が3件(同性間および異性間の性的接触が1件、経口感染が2件)ありました。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症:5件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 急性脳炎:インフルエンザ脳症が疑われる報告が4件(幼児2件、小児1件、40歳代1件)、病原体不明の報告が1件ありました。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症:70歳代のA群の報告が1件ありました。
- 侵襲性インフルエンザ菌感染症:80歳代の報告が2件ありました。
- 侵襲性肺炎球菌感染症:乳児の報告が3件(ワクチン接種あり)、60歳代の報告が4件(ワクチン接種なし2件、不明2件)、70歳代の報告が3件(いずれもワクチン接種不明)、80歳代の報告が4件(ワクチン接種なし2件、不明2件)ありました。
- 水痘(入院例に限る):90歳代の検査診断例の報告が1件(ワクチン接種不明)ありました。
- 梅毒:5件の報告(無症状病原体保有者2件、早期顕症梅毒Ⅰ期1件、早期顕症梅毒Ⅱ期2件)がありました。感染経路は、異性間の性的接触が4件、同性間の性的接触が1件でした。男性2件、女性3件でした。
- 百日咳:10歳未満では乳児が5件(ワクチン接種あり2件、なし3件)、小児が8件(ワクチン接種あり7件、不明1件)の報告があり、10歳代で7件(いずれもワクチン接種あり)、40歳代で2件(いずれもワクチン接種不明)の報告がありました。
- 風しん:検査診断例30件、臨床診断例1件が報告されています。乳児が1件(ワクチン接種なし)、幼児が1件(ワクチン接種あり)、20歳代が10件(ワクチン接種なし3件、不明7件)、30歳代が6件(ワクチン接種なし2件、不明4件)、40歳代が6件(いずれもワクチン接種不明)、50歳代が5件(ワクチン接種なし1件、不明4件)、60歳代2件(いずれもワクチン接種不明)でした。男性24件、女性7件でした。

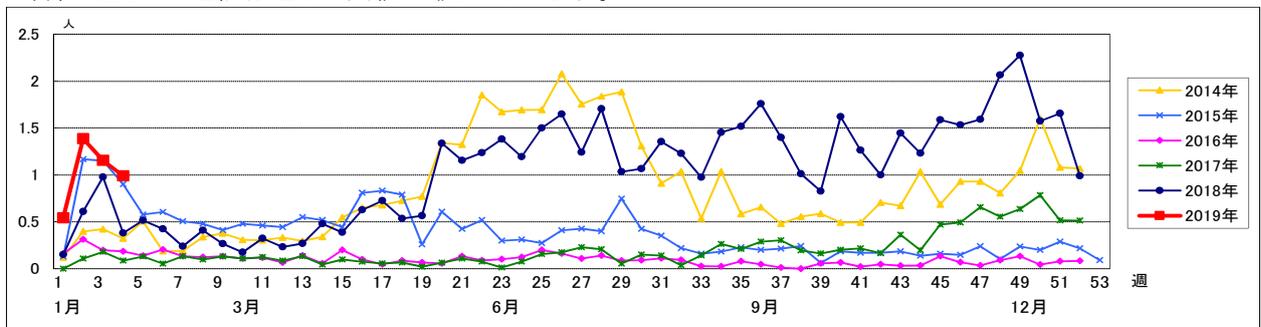
◇ 定点把握の対象

1 インフルエンザ【流行警報発令中】:第48週にて定点あたり1.07にて流行開始、第51週にて11.31にて注意報発令、第2週にて36.08にて警報発令基準値(30.00)を上回りました。さらに第3週では55.73、第4週では67.25と増加し、例年と比べて大幅に報告数が増加した昨シーズンの同時期の報告数を上回っています。

報告週対応表	
第52週	12月24日～12月30日
第1週	12月31日～1月6日
第2週	1月7日～1月13日
第3週	1月14日～1月20日
第4週	1月21日～1月27日



2 伝染性紅斑:2017年第45週頃より増加傾向となり、例年と比べて高値で推移していましたが、第48週に2.07にて警報発令基準(2.00)を上回りました。2019年第1週以降は警報発令基準を上回っていませんが、第4週も0.99と依然として高値が続いています。



3 性感染症(12月)

性器クラミジア感染症	男性:24件	女性:17件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:2件	女性:10件
尖圭コンジローマ	男性:5件	女性:1件	淋菌感染症	男性:5件	女性:4件

4 基幹定点週報

	第52週	第1週	第2週	第3週	第4週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.25	0.00	1.50	0.33	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.67	0.00

5 基幹定点月報(12月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	10件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	2件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	—	—

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

1月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点57件、内科定点29件、基幹定点15件、眼科定点5件で、定点外医療機関からは8件でした。

2月5日現在、表に示した各種ウイルスの分離株67例と遺伝子13例が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(1月)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	イン フル エン ザ	咽 頭 結 膜 熱	感 染 性 胃 腸 炎	イン フル エン ザ 脳 症
インフルエンザ AH1pdm09型		22 2			1
インフルエンザ AH3型	1	42 6			
アデノ 3型			1		
ノロ				5	
合計	1 0	64 8	1 0	0 5	1 0

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

「菌株同定」依頼は、基幹定点から劇症型溶血性レンサ球菌2件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌2件、肺炎球菌2件、腸管出血性大腸菌1件などとなり、非定点からの依頼は、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌2件ありました。

保健所からは、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌4件、肺炎球菌4件、劇症型溶血性レンサ球菌4件等の依頼がありました。

「分離同定」に関しては、基幹定点から熱帯熱マラリア1件、保健所から喀痰のレジオネラ属菌の検査依頼が4件ありました。

小児科定点からは、A群溶血性レンサ球菌3件の検査依頼がありました。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(1月)

菌株同定	項目	検体数	血清型等	
医療機関	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	2	<i>Enterobacter aerogenes</i>	
	カンピロバクター属菌	1	<i>Campylobacter jejuni</i>	
	サルモネラ属菌	1	<i>Salmonella</i> Schwarzengrund	
	基幹定点 グラム陰性桿菌	1	<i>Helicobacter cinaedi</i>	
	腸管出血性大腸菌	1	O111:H- VT1	
	劇症型溶血性レンサ球菌	2	G群溶血性レンサ球菌	
	肺炎球菌	2	<i>Streptococcus pneumoniae</i> 23型、UT型	
非定点	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	2	<i>Enterobacter cloacae</i> 、 <i>Enterobacter aerogenes</i>	
保健所	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	4	<i>Enterobacter aerogenes</i> (1)、 <i>Klebsiella pneumoniae</i> (1)、 <i>Enterobacter cloacae</i> (2)	
	腸管出血性大腸菌	1	O128:H10 VT1	
	肺炎球菌	4	<i>Streptococcus pneumoniae</i> 型別不能	
	劇症型溶血性レンサ球菌	4	A群溶血性レンサ球菌TB3264(2)、T11(1)、 G群溶血性レンサ球菌(1)	
	インフルエンザ菌	2	<i>Haemophilus influenzae</i> 型別不能	
分離同定	項目	材料	検体数	同定、血清型等
医療機関 基幹定点	熱帯熱マラリア	全血	1	<i>Plasmodium falciparum</i> (LAMP法)
保健所	レジオネラ属菌	喀痰	4	不検出(培養法)
小児科サーベイランス	項目	検体数	同定、血清型等	
小児科定点	A群溶血性レンサ球菌	3	A群T1、A群TB3264、A群T型別不能	

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、平成31年1月のアクセス件数、アクセス順位、電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については市民局広報課から提供されたデータを基に集計しました。

1 利用状況

(1) アクセス件数

平成31年1月の総アクセス数は、221,773件でした。前月に比べ約47%増加しました。主な内訳は、横浜市感染症情報センター*180.8%、保健情報5.5%、検査情報月報1.3%、食品衛生1.3%、生活環境衛生1.0%、薬事0.5%でした。

*1 横浜市では、衛生研究所感染症・疫学情報課内に横浜市感染症情報センターを設置しており、横浜市内における患者情報及び病原体情報を収集・分析し、これらを速やかに提供・公開しています。

(2) アクセス順位

1月のアクセス順位(表1)を見ると、感染症に関する項目が、大半を占めています。

1位は、「インフルエンザ流行情報(2018/2019)」、2位は、「横浜市インフルエンザ流行情報6号(2018/2019)」、3位は、「横浜市感染症情報センタートップページ」でした。インフルエンザが流行期に入っており、アクセス件数が増えています。

表1 平成31年1月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	インフルエンザ流行情報(2018/2019)	20,343
2	横浜市インフルエンザ流行情報6号(2018/2019)	19,447
3	横浜市感染症情報センタートップページ	13,542
4	横浜市インフルエンザ流行情報5号(2018/2019)	10,986
5	衛生研究所トップページ	10,177
6	横浜市インフルエンザ流行情報7号(2018/2019)	8,993
7	横浜市インフルエンザ流行情報4号(2018/2019)	7,183
8	大麻(マリファナ)について	7,087
9	電子パンフレット「疥癬(かいせん)ってなあに？」	6,638
10	インフルエンザについて	6,242

データ提供: 市民局広報課

「インフルエンザ流行情報(2018/2019)」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/influenza/influenza-rinji-index2018.html>

「横浜市インフルエンザ流行情報6号(2018/2019)」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/influenza/2018/rinji06.pdf>

「横浜市感染症情報センタートップページ」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/>

(3) 電子メールによる問い合わせ

平成31年1月の問い合わせは、2件でした(表2)。

表2 平成31年1月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
サプリメントについて	1	理化学検査研究課
リステリア菌について	1	感染症・疫学情報課

2 追加・更新記事

平成31年1月に追加・更新した主な記事は、13件でした(表3)。

表3 平成31年1月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
1月 1日	◆お知らせ◆ 感染症法が一部改正され、届出基準・届出様式が変更	更新
1月 9日	感染症に気をつけよう(1月号)	掲載
1月 9日	インフルエンザワクチンについて	更新
1月 9日	インフルエンザウイルスのインフルエンザ治療薬(抗ウイルス剤)に対する耐性について	更新
1月 9日	A型インフルエンザウイルスのアマンタジンに対する耐性について	更新
1月10日	横浜市インフルエンザ流行情報5号	掲載
1月17日	横浜市インフルエンザ流行情報6号	掲載
1月18日	横浜市風しん流行情報12号	掲載
1月21日	DNAシーケンサーの緊急契約による修理について	掲載
1月24日	インフルエンザについて	更新
1月24日	横浜市インフルエンザ流行情報7号	掲載
1月28日	インフルエンザウイルスのインフルエンザ治療薬(抗ウイルス剤)に対する耐性について	更新
1月31日	横浜市インフルエンザ流行情報8号	掲載

【 感染症・疫学情報課 】